

DX推進の取組について

●デジタル技術が社会や当社の競争環境に与える影響について

株式会社ワテックスは、プレス・板金加工、ステンレス製品の製造、小物部品加工からアッセンブリー、3mを超える長尺物の曲げ加工などを手がけています。金属加工業界では、設計・製造データのデジタル連携や、インターネットを通じた発注・見積もりの広がりにより、加工先の比較が容易になり、価格と納期を軸とした競争が一段と厳しくなっています。また、熟練技能者の高齢化や人材不足が進むなかで、加工条件や不具合対応が個人の経験に留まる状態を放置すれば、品質のばらつきや納期遅延を招き、受注機会を失うリスクがあります。

一方で、日々の加工で得られる条件・工程・不具合の実績をデータとして蓄積し活用できれば、短納期対応や長尺物加工といった当社の強みをより確かなものにでき、価格競争とは異なる土俵で選ばれる機会が広がると認識しています。当社はデータとデジタル技術を活用し、この強みを組織の資産として磨き上げてまいります。

●経営ビジョン

当社は、確かな板金・プレス加工技術と柔軟な対応力で、お客様のものづくりを支える存在であり続けることを目指しています。そのために、短納期対応と長尺物加工という強みを支えてきた現場の知見を、データとデジタル技術によって誰もが活用できる形に置き換え、経験や属人的な判断に頼った運営から、データに基づく運営へと転換してまいります。

ビジネスモデルの方向性としては、受注した加工を着実にこなす受託型の事業に加え、蓄積した加工実績データや受注・引合いのデータを活かして納期と品質の確度を高め、お客様に根拠をもって提案できる加工パートナーへと進化し、需要の動きを見据えた材料調達や生産計画により、機会損失と在庫の無駄を抑える事業運営へと発展させます。

●経営及びデジタル技術等の活用の具体的な方策（戦略）

当社のDX戦略は、単なるデータの共有や一元化にとどめず、分析・予測にデータそのものを活用し、経験や属人的な判断に頼った運営からデータに基づく運営へと変革することにあります。まず、既存の加工業務の変革として、受注案件ごとの材質・板厚・曲げ長さ・加工条件・段取り時間・加工時間・不具合の発生状況を工程単位でデータとして蓄積します。これらを分析して、案件ごとの所要時間や不具合の起こりやすい条件を予測し、その結果に基づいて工程の順序や設備の割り当て、段取りを事前に最適化します。これにより、見積もり・納期回答を担当者の経験に頼る方式から、実績データに基づく根拠ある回答へと転換し、短納期の精度向上と手戻りの削減を実現します。

あわせて、新たな価値創出として、長尺物の曲げ加工で培ってきた加工条件や治具の使い方、たわみや寸法ばらつきへの対処といったノウハウをデータベース化します。類似案件の条件を検索・提案できる仕組みにすることで、見積もりや加工準備の迅速化と品質の安定を図り、熟練者に依存せず対応できる案件の幅を広げます。また、過去の受注・引合いの件数や仕様（材質・板厚・数量・納期）のデータを分析して繁忙期や需要の傾向を予測し、ステンレス等の材料の発注量やタイミング、人員・設備の配置を事前に調整することで、短納期の要請にも余裕をもって応えられる体制を整えます。

●戦略を効果的に進めるための体制

代表取締役の渡辺知宜がCIOを兼務し、DX戦略の推進を自ら統括します。製造現場の責任者と営業・見積もり担当が連携するDX推進の取組体制を整え、それぞれが加工実績データの入力・点検、見積もりへの活用、受注・引合いデータの分析と材料調達・生産計画への反映といった役割を担います。進捗は定期的な会議で確認し、課題を速やかに現場へ反映します。データ分析やシステム活用に関しては外部の専門家とも連携し、限られた人員でも継続的に取り組める仕組みを構築します。

人材の育成・確保については、熟練技能者が持つ加工条件の判断や不具合対応のノウハウを言語化・データ化することで技能の継承を進めるとともに、データの入力・読み取り・活用のスキルを日々の業務のなかで段階的に習得できるよう、OJTと外部研修を組み合わせで取り組みます。将来的には、データ活用を担う人材の採用も視野に入れ、計画的に育成してまいります。

●DX戦略推進の環境整備

DX戦略を円滑に進めるため、加工実績や不具合情報、見積もり・納期の履歴を一元的に蓄積し、分析できるクラウド型の生産管理・データ基盤を整備します。現場では、タブレット等を用いて作業の実績をその場で入力できる環境を整え、入力されたデータを分析ツールで可視化して、工程計画や見積もりに活用できる状態にします。また、受注・引合いの履歴や材料の調達実績も同じ基盤で分析できるよう連携を進めます。

お客様の図面や仕様といった機密性の高い情報を扱うことを踏まえ、情報セキュリティの基本方針を定め、アクセス権限の管理、データのバックアップ、通信の保護、従業員への教育といった対策と適切な運用管理を徹底します。

●戦略の達成状況に係る指標

DX戦略の達成度を測るため、戦略に紐づけた次の指標を設定し、継続的に進捗を管理します。既存業務の変革については、工程単位で実績データを記録した案件の割合、データに基づく納期回答の遵守率、不具合による手戻り件数の削減、見積もり回答に要する時間の短縮を指標とします。長尺物加工ノウハウのデータベース化については、登録した加工事例の件数と、類似事例を参照して対応した案件の割合を把握します。受注・引合いデータの分析については、需要予測に基づく材料発注・人員配置の見直し実施件数と、材料の欠品や過剰在庫による納期影響・ロスの削減状況を指標とします。これらにより、短納期対応という当社の強みを維持・向上できているかを明確に把握してまいります。

●DXを牽引するトップメッセージ

当社はこれまで、短納期への対応力と長尺物の曲げ加工をはじめとする確かな技術で、お客様のものづくりをお支えしてまいりました。これらの強みは、現場で働く一人ひとりの経験と工夫に支えられてきたものですが、私はその知見を個人の中だけに留めず、データという会社の財産に変えていくことが、これからの当社に欠かせないと考えています。

私自身が先頭に立ち、データとデジタル技術を活用して、より早く、より確かな品質でお客様の期待にお応えするとともに、働く者にとっても技術を受け継ぎやすい会社へと進化させてまいります。

代表取締役 渡辺 知宜